

## ⑦神奈川決勝、2点差で（高校ラグビー決勝）

2020年11月15日

神奈川県決勝戦が横浜三ツ沢競技場にて無観客で11月15日(日)に開催されました。全国でもほぼ最後のカードとなり、100回記念のオータムチャレンジの試合を除いてすべての県代表が名乗りを上げることになります。

高校生の試合は、前後半30分ずつ、計60分で行われます。大学や社会人、トップリーグ（プロ）は前後半40分、計80分ですので、20分ほど短い試合となります。高校生となるとあらかた大人と同じルールで開催されるが、大きく見た目でもわかる違いは、①全員ヘッドキャップを着用、②スクラムは、1.5mしか押せない。（押した後はスクラムを崩さずボールが出るまで止まらなければいけません）

これまで桐蔭学園（以下、桐蔭）と東海大相模（以下、相模）は宿命のライバルで、前回の記念大会は神奈川2校代表で、両チームが花園に行きました。過去5年は桐蔭が花園に行っていたが、準優勝は相模と慶應の2校で分け合うという形になっていた。

今年の試合は、桐蔭は強力FWが強力なディフェンスを擁す相模にどれだけ策が通じるか、一方相模は突き刺さるタックル、ディフェンスからどうやって桐蔭を止め、反転攻撃をするか、というところが焦点となる試合だった。試合の映像は前回に続いて以下のTVKサイトからご覧ください。

[https://www.tvk-yokohama.com/sports\\_sp/](https://www.tvk-yokohama.com/sports_sp/)

前半は両チームとも些か硬い入りとなった。最初の得点は、桐蔭No-8の佐藤（キャプテン）のラインブレイクからの先制トライとなりました。さらに相模のキック処理のミスから、ラインアウトからのFWのサイド攻撃を重ね桐蔭Lo青木のトライ2本目となった。その後、すぐに相模はアドバンテージの間に右に展開して、FB河野のトライ、その後のPGで相模の射程圏の点差2点と僅差で前半を終えた。

後半は一進一退の展開の後、じわじわとゴールに迫る桐蔭。FWの体重、桐蔭平均100kgに対して相模平均87kgと体重差が、スクラムを組むごとにじわりじわりと相模のFWの体力を消耗させていた。相模もこのFWの体力消耗を補う策として一気にメンバーを変え、フレッシュな選手で戦いを継続したが、後半21分にFW戦からこの日2つ目のトライを桐蔭Lo青木がゴール下にトライを奪った。やはり前年の全国大会の優勝メンバーとして、全国屈指のロックプレイヤーとしての意地のトライ奪取であった。

その後は終始、気迫の相模の攻撃を桐蔭が防戦一方となり、後半ロスタイムに桐蔭の反則のアドバンテージの間に、相模の10番がインゴールにパントを上げ、トライを奪い、ドロップゴールで2点を追加、意地の一本を取り返すも ○桐蔭19-17相模●、ノーサイド。

桐蔭が前半の2点差を堅守。6年連続19度目の花園への切符を手にした。準優勝の東海大相模、次はオータムチャレンジ枠での花園を狙える切符を確保している。あと2勝だ。共に花園での神奈川の高校代表としての雄姿を見せて欲しい。桐蔭も相模も。